

酒匂川の都市部への出口・大口の「富士山噴火災害罹災関連碑」を訪ねるたび、私は「富士山の鼓動と酒匂川の轟轟たる響き」を感じ、近い将来への備えに不安を抱く。本日のシンポジウムで助言やヒントを頂き将来への備えを前進したいと思う。



2017. 11. 18

神奈川県南足柄市長 加藤 修平

(富士山宝永噴火災害罹災地首長を代表して)

富士山

宝永山

富士山と酒匂川：①富士山東麓、②裏箱根、③丹沢連峰からすべての火山灰と雨が南足柄市大口の1点に集まる

河口湖

山中湖

①

③丹沢連峰

②

箱根連山

南足柄市

★大口

酒匂川

酒匂川水系流域図 (三保ダム管理事務所作成図に加筆)

※分水嶺図

青枠内に降ったすべての火山灰と雨は、
大口に集まり大口から狭い平野部に流れる。
水源は広大で流域面積は、582Km²に及ぶ。



3つの懸念点

- ① **一次災害:** 582Km²に宝永噴火時、平均50cm積もった足柄平野の噴火砂を、現代においてどのように処置するのか？ (⇒提言1へ)
- ② **二次災害:** 上流山地から噴火砂と雨が集積する大口堤は耐えられるのか？ 洪水災害規模(地域×期間)が想定出来ない。(⇒提言2へ)
- ③ 静岡県と神奈川県をまたぐ酒匂川の全体の最適化は図られるのか？
かつては小田原藩。酒匂川流域の一体管理の必要性(⇒1級河川化)

解(溶)けそうで解(溶)けない一次災害 「降り砂(スコリア=黒い雪)問題は初歩の初歩」

- ①自動車交通網の確保
(ライフライン問題に直結)
- ②降り砂の処置(捨て場の確保)
 - 1) 道路
 - 2) 住宅屋根(加重で倒壊)
 - 3) 工場や公共地

⇒①②対策は、南足柄市単独では解決不能。足柄平野、酒匂川流域、神奈川県など広域連携が必要



火山灰が降り積もった自動車(熊本県阿蘇市)
『日本経済新聞(2016年10月8日)』より

東京都全域に 1cmの降灰があった場合の幹線道路清掃試算 (2012年内閣府)

2,739Km ÷ 0,36km/h ÷ 85台

(総延長) (1h当り除灰可能距離) (保有清掃車)
=90時間=約4日間

富士山噴火を内閣府試算
 内閣府は山頂に、富士山で大規模な噴火が起きた場合、東京都内の主要道路に降り積もった火山灰を除去するための試算をまとめた。全国の火山、想定される大規模噴火によるシナリオへの影響や対策を検討するため、富士山をモデルとして推計した。内閣府は本年中に除灰対策や避難方法などを盛り込んだ提言をまとめる予定。
 富士山が最後に噴火した江戸時代の宝永噴火(1770年)と同じ規模で、16日間降灰が続く想定。降灰量は148万立方メートル、内閣府は「自治体間で反響を醸成し、職員の派遣したりする仕組みが必要」と指摘している。

都内道路の灰除去に4日
 道の主要幹線道路を掃く(1.5万立方メートル)除去するだけで、都の道路清掃車85台をフル稼働しても90時間かかる。管轄所も調査、確保している」と答えたのは自治体幹部の一人。一時保管にまわった。



宝永噴火の降り砂は、偏西風に乗って江戸、銚子にまで達した。三軒茶屋あたりで6cm。15cm以上のエリアには、東名高速道路や国道1号線など日本の動脈である幹線道路が集中する。

提言 ①

ライフライン確保に直結する主要幹線道路の確保策は、国家プロジェクトとして取り組む必要がある。宝永噴火災害罹災地首長として切に訴えたい。

国土交通省刊『富士山宝永噴火と土砂災害』より

宝永噴火の想定降灰分布 (富士山ハザードマップ検討委員会, 2002)

宝永噴火の 教訓 二次災害

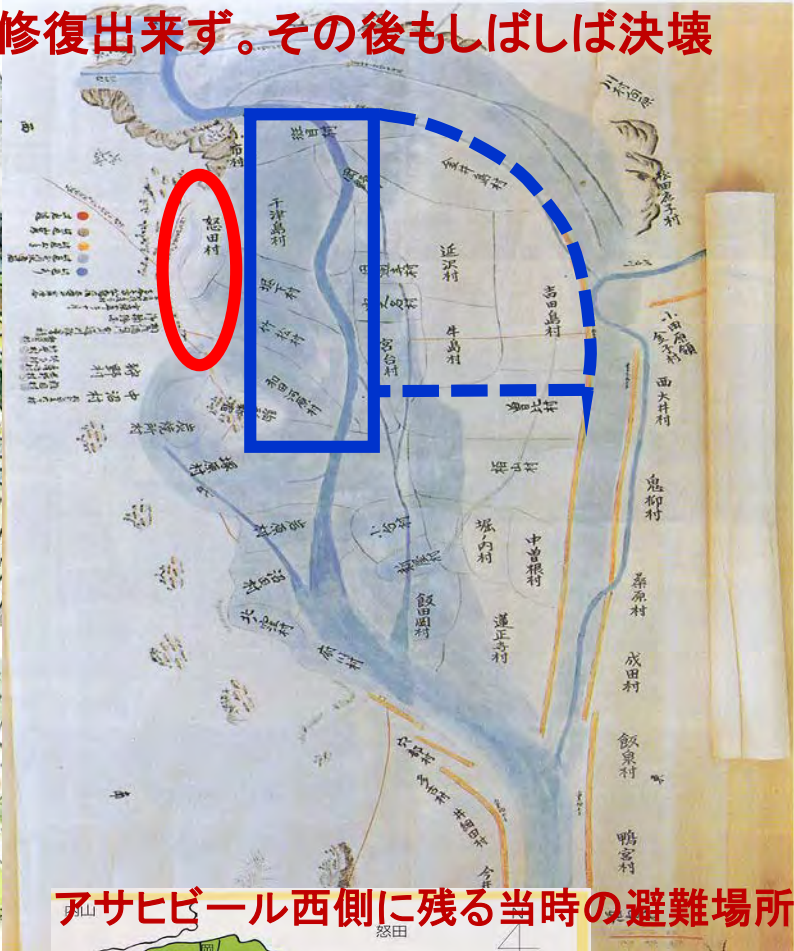
おお くち みず した すい そん いえ だて

大口下水損家立六か村

- ① 宝永噴火時(300年前)と現在を比較。
 - ・世帯数: 414⇒3,000世帯
 - ・人口計: 2,608⇒9,000人
- ② 宝永噴火時は、1軒あたり30坪の区割りで標高80mの怒田山に避難小屋を建て平均20年間生活した。
 - ※ 3,000軒だと90,000坪必要
 - ※ 300年前には怒田山に村ごとに避難場所を確保出来たが現在では検討要す。
 - ※ 開成町(約6.5千世帯、17.5千人)を含めた足柄平野全体(9,500世帯、26,500人)の収容検討は未着手。

流された村むら

1711年の大水害で大口堤決壊。15年間は修復出来ず。その後もしばしば決壊



※『富士山と酒匂川』(足柄歴史再発見クラブ刊)より 避難のようす

アサヒビール西側に残る当時の避難場所



足柄平野(南足柄市福沢地区、開成町)
有事の際の救援基地は?!



2次災害(噴火砂の大口堆積による堤防破壊)の予測は南足柄市単独では困難。

300年前大口水下水損家立六か村
414世帯2,608人の命を救ったのは
怒田山。(現在は約3,000世帯、9,000人。
足柄平野全体では約9,500世帯、26,500人。)
足柄平野有事の際には、救援基地の候補の一つとして怒田山が挙げられるが、私的机上プランの域を出ない。

提言②

噴火砂の堆積による「酒匂川洪水災害推定図」を国・県連携で作成願いたい。